



県立広島大学 Prefectural University of Hiroshima

地域連携センター報

Vol. **24**

COMMUNITY LIAISON CENTER

平成29年3月20日発行

県立広島大学地域連携センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号 電話082-251-9534 E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp

「広島は、レモンで健康じゃ！シンポジウム」及び「レモン大学」開催

本学は広島県総合技術研究所及びポッカサッポロ フード&ビバレッジ株式会社とともに、広島県の戦略作物である「レモン」について長年共同研究を続けてきました。そして、9月3日の「クエン酸の日」に合わせて、これまでの研究成果の報告も兼ねた「広島は、レモンで健康じゃ！」シンポジウムとレモンをより身近な食べ物として知ってもらうための「レモン大学」を、本学広島キャンパスにおいて同時開催しました。

シンポジウムでは、広島県発！レモンのチカラ「レモン果汁飲料を継続的に飲み続けたら…」と題し、本学の理学療法学科飯田忠行准教授による研究成果報告や、共同研究を行ったポッカサッポロ



シンポジウムの様子

フード&ビバレッジ株式会社新規基盤開発研究所井上孝司所長によるレモンのキレート作用など、レモンの効果について研究成果報告を行いました。プログラムは学術的な内容ばかりでなく、料理研究家キッス調理技術専門学校北川琴美氏や本学健康科学科の学生によるレモンを使ったレシピの紹介など、生活の中でレモンを上手に取り込む方法などについての内容も盛り込まれた講演でした。

レモン大学では、キレート作用実験などレモン果汁を使った実験や様々な種類のレモンの実の観察、オリジナル減塩しょうゆの味見や塩分チェックなど、体験しながらレモンを知ってもらうブースを設置しました。ヨーグルトにいろいろな種類のジャムでお絵かきをする体験ブースは小さな子どもに人気で、楽しみながらレモンや健康について学べる場となりました。

また、本学のブースでは健康科学科の学生が考案したオリジナルのレモンスコーンを無料配布し、「レモンの香りがフワッとしてとてもおいしい」と好評でした。

本学は地域に開かれた大学として、地域の持続的発展に貢献するため、大学が有する知的・物的資源を地域に積極的に提供してきました。今回は研究成果報告だけでなく、地域の小さな子どもから高齢者まで、シンポジウムやレモン大学を通じて本学を知っていただく良い機会となりました。



レモン大学の様子



参加した健康科学科の学生

三原キャンパス

MIHARA CAMPUS

合同学会

第13回広島保健学学会学術集会・第17回広島保健福祉学会学術大会

広島大学大学院医歯薬保健学研究院による広島保健学学会学術集会と本学保健福祉学部による広島保健福祉学会学術大会との合同学会が、10月15日に広島大学保健学科棟で開催されました。



本会は今年度で合同の開催が最後となるため、テーマである「保健・福祉学で進む国際戦略・イノベーション—各専門領域で進む先駆的な研究動向—」から国際的な視野を入れて、最先端の研究の動向を目指した発表に重点を置きました。海外から講師も招き、保健・医療・福祉について講演を行いました。合同での開催が最後となることを惜しむ声もあり、好評のうちに学会は終了しました。



地域貢献

キャンパスツアー



7月22日にキャンパスツアーを開催しました。普段は大学の様子を知ることのできない地域の方々に大学を知ってもらうことを目的として実施している事業です。三原キャンパスには5学科1専攻科がありますが、毎年交代でツアー参加者へ学科専攻科を紹介しています。今年は言語聴覚士を目指す学科で

あるコミュニケーション障害学科と理学療法士を目指す学科である理学療法学科が担当しました。

コミュニケーション障害学科の紹介では、学科の説明の後に実際に使用する道具や施設の見学があり、マジックミラーのある部屋には参加者も興味津々でした。

理学療法学科の紹介では、コンピュータによる三次元動作解析のデモンストレーションが行われました。特殊塗料シールを張り付けたバドミントンラケットでシャトルを打つ「技術」を分析しました。終盤ではギターの演奏で、腕や指の動きと演奏の技術との関連について説明しました。参加者からは楽しかった、また是非参加したいとの感想があり好評でした。

来年度も7月にキャンパスツアーを開催する予定です。興味のある方は是非ご参加ください。

公開講座

三原シティカレッジ講座



三原シティカレッジは、地域の方々に対して本学の知的財産を提供することを目的として講座を開始しました。毎年恒例の講座として三原市では定着しています。今年度も一般市民を対象にした「市民講座」7講座と、小中高生を対象にした「夏休み特別企画」5講座を開催しました。

「市民講座」では、子どもの発達支援について学ぶ「子どもたちへの地域での発達支援」や医療的治療を必要としない赤ちゃんの発達を知る「小さく産まれた赤ちゃんの発達を知る」など、子育てに関わる講座がありました。また、「英語学習への誘い」「園芸福祉入門!」といった教養的な講座や、「“いい感じ”の自分とこころの健康づくり」「心の健康を考えよう」のこころの健康をテーマにした2つの講座も開催され多くの地域の方々が興味を持って参加されま

した。中でも「プレイバックシアター：即興劇で学ぶコミュニケーション」は今年度からスタートした講座で、即興で演じることでコミュニケーション能力を高め、今後の生活や仕事のあらゆる場面で自分を表現するのに活かせる講座でした。



「夏休み特別企画」では物作りが学べる「オンラインワン工作～自由に楽しく作ろう～」や、「おもしろぶつり実験」「“身体を動かす『筋肉』について知ろう”」の実験を通して学べる講座が小・中学生に人気でした。また、「高校生のためのプレマプレパ教室」「13歳からの言語聴覚士入門～きこえ・のみこみ・ことばの障害とそのリハビリテーションの基本を知ろう～」といった生命を学び、将来を考えるきっかけとなる講座にたくさんの高校生からの申込があり、また是非このような講座をやってほしいとの声があがりました。

三原シティカレッジは来年度も開催予定です。6月以降に講座一覧を本学HPに掲載しますので興味のある方は是非ご参加ください。



※三原市民以外も申し込みを受け付けています。

研究紹介

学生と共に地域の課題に取り組む

保健福祉学部人間福祉学科 講師 吉田 倫子

みなさんの地域で困っていることはありませんか。大学生に手伝ってもらいたいことはありませんか。

私は現在4名の教員と学生らと共に「新四国八十八箇所巡拝案内図（西大田地区）の再興とそれを活用した地域づくり」に取り組んでいます。

世羅町西大田地区では、昭和初期に地元有志が四

国八十八カ所を模して地区に88体の様々な石像を安置しました。それらの石像群を資源として地域づくりに役立てたいということで、学生らと



石像調査を9月21・22日に行いました。地域の方々の案内のもと、山道を、民家の敷地を、時にはおいしそうなぶどうや栗に出会いながら、一つ一つの石像を見ていきました。最終日には学生らが調査結果を報告しました。10月15・16日の「西大田ふれあいまつり」では88か所の展示も行い、地域の方々の関心を集めました。今後は資源の活用方法を地域の方々に巻き込んで検討していきます。

また、三原地域連携推進協議会による調査研究では、昨年度「三原市本町空き家調査」に卒業論文として取り組みました。駅に近い地区ですが多くの空き家があること、坂道が多いので高齢者は買い物も控えていることなどわかりました。学生らは空き家の活用について地区ごとの提案をするなど、地域の方々に研究成果を発表しました。現在は産学官で連携して現地調査を進め、所有者への空き家活用の提案（三原商工会議所青年部会空き家利活用研究同好会）や空き家ツアーの企画（株式会社まちづくり三原）を行うなど学生の調査を基に地域が動き始めています。

こうして地域課題に取り組むことは、人間福祉学科の学生らにとって福祉の視点だけでなく、地域全体の問題にも目を向ける良い機会となっています。また、地域の方々は大変歓迎し、調査に尽力してください。将来学生らが専門職になったときに、どのように地域の方々に協力を得るか、実践的に学ぶことができました。

皆さんも学生らと共に地域の課題に取り組んでみませんか。



広島キャンパス

HIROSHIMA CAMPUS

地域連携・産学連携

信金合同ビジネスフェア

第11回広島県信用金庫合同ビジネスフェアが11月8日に広島グリーンアリーナで開催されました。本学も出展ブースを構え、地域貢献及び地域



展示ブースの様子

産学官連携活動についてその成果を展示紹介しました。また今回は、今後の地域の自治体や企業との連携を進めるために、本学の教員や研究内容の紹介もあわせて行いました。

具体的な出展内容としては、地域の企業と共同開発した「イノシシ忌避装置」のパネル紹介や、三原城址濠の浄化方法の調査検討や江田島の観光情報発信方法の検討といった、自治体と連携した地域課題解決への取り組みの実例紹介を行っています。研究紹介では、木材の利活用に関する研究について紹介しました。

天候に恵まれたとは言えない中で多くの方が来場され、本学ブースにも多くの方にお越しいただきました。具体的な事例を挙げて説明することで、本学の地域貢献活動についてよりご理解いただけたのではないかと考えています。

自治体意見交換会

包括連携協定を締結している9自治体（7市1区1町）との意見交換会を、12月1日に広島キャンパスにおいて開催しました。



意見交換会の様子

包括連携協定とは、自治体と大学が様々な課題や事業に共同で取り組むことを目的に締結した協定で、本意見交換会は、この共同の取り組みについてそれぞれの意見や意向、情報等を密に連絡し合い、より効果的に連携し成果創出を目指す目的で開催しています。この共同の取り組みの一つに、地域戦略協働プロジェクトがあり、その進捗報告とともにプロジェクトの計画や運用等に関する課題や改善点等について意見交換を行いました。

知財セミナー

12月8日、知財セミナー（重点研究応募説明会と併催）を開催しました。今回のセミナーでは、産学連携や知的財産に関するリスクマネジメントを主眼としました。前半は、「知的財産の基本知識」と題して、身近でもトラブルに巻き込まれやすい「不正競争防止法と著作権法の概要」と「特許制度の概要と学内手続き」を説明しました。

後半は、「知的財産の留意点」と題して共同研究、特許発明、著作物等の取扱いに関する留意事項を説明しました。頻繁に尋ねられる質問とその回答をQ&A形式で具体的を挙げて説明することで、知的財産のリスクマネジメントを身近に感じていただけたのではないかと考えています。



知財セミナーの様子

公開講座

言語を通じて世界を知る

10月7日から28日にかけて、4回にわたり広島市立大学との連携公開講座を開講しました。この講座では両大学の教員4人が、日本語に取り込ま



れたラテン語・ポルトガル語、英語圏の風刺漫画、ロシア語の特徴および日露関係、アラビア語が果たしてきた歴史的役割の内容で講義を行いました。受講者からは、「文化に優劣をつけることはできないというお話がとても印象的だった」、「宗教や文化に興味があるので、もっといろいろ知りたいと思えた」、「資料が充実していた」などの感想が寄せられました。

後期は、このほか、歴史・文化・文学系として「読み切り文学講座」（広島市南区図書館との連携講座）、「アメリカ映画の原作を読む」、「くずし字に挑戦」、「『教育』について考える」、「石と金の文化誌」、「考古学と発掘調査」（広島市宇品公民館との連携講座）、「おはなしの国へようこそ」（広島市宇品公民館との連携講座）、健康系として「健康づくりと運動」、「健康科学連続講座」、情報系として「経営情報学連続講座」、「ITパスポート試験対策講座」を開講しました。

研究紹介

食生活から幸せづくりのお手伝い

人間文化学部健康科学科 准教授 森脇弘子

介護予防は、高齢者が要介護状態等となること
の予防、または要介護状態等の軽減もしくは悪化
の防止を目指しています。日常生活の活動を高め、
家庭や社会への参加を促し、それにより一人ひと
りの生きがいや自己実現のための取り組みを支援
し、QOL（Quality of Life=生活の質）の向上を目
指すものです。

私は、要介護状態になるリスクの高い高齢者を
対象とした介護予防教室の効果について集計・分
析してきました。どの年齢層においても、健康・
生活状況、運動器の機能、口腔機能、食事・食生
活ともに改善していました。しかし、地域差があ
ること、特に男性の参加者が少ないこと等の課題
がみえてきました。

現在、住民が運営する高齢者の通いの場の活動
を地域に展開し、人と人とのつながりを通じて参
加者や通いの場が継続的に拡大していく地域づく
りが推進されています。学生とともに、高齢者の
自主的な料理教室の支援を毎年続けています。人
生の先輩から学ぶことは多く、また、学生の活動
を楽しみにされている地域のみなさまに励まされ
ています。地域のみなさまの健康的な食生活づく
りのお手伝いできればと願っています。



料理教室での学生の活動

IoT, ビッグデータ, 人工知能

経営情報学部経営情報学科 教授 市村 匠

高速インターネットが普及し、様々な
機械がインターネットに接続し（IoT）、
多様な情報がクラウドに集約される現
在、想像できない程の大容量のデータを瞬時に処
理することが求められる時代になってきました。



データには数値や文字だけでなく、画像などの
情報もあります。このような‘ビッグデータ’をう
まく処理することによって、人間ができなかった
ことをコンピュータで実現するために人工知能は
活用されています。

特に、深層学習（ディープラーニング）と呼ば
れる脳の情報処理を模倣したニューラルネットワ
ークは、囲碁や将棋で人間の棋士に勝利したり、自
動車の自動運転を実現したり、今までは考えられ
なかった能力を発揮しています。

私の研究は、精度の高い深層学習アルゴリズム
を開発することで、大容量のデータをGPUと呼ば
れる計算機で分析しています。平成28年度は経済
産業省や総務省から競争的資金を獲得し、人間の
能力を超える人工知能を開発することに成功しま
した。

研究成果は、多くの企業様や公共機関様と共
に共同研究を行い、計測装置から収集されるデー
タの分析や、検診データから疾病診断支援を行う
ことに活用されています。さらに、皆様に安心して
最先端の技術を活用していただけるよう研究を
行っています。

研究成果は、多くの企業様や公共機関様と共
に共同研究を行い、計測装置から収集されるデー
タの分析や、検診データから疾病診断支援を行う
ことに活用されています。さらに、皆様に安心して
最先端の技術を活用していただけるよう研究を
行っています。

広島交響楽団特別講義

12月12日に広島キャンパスで広島交響楽団特別講義を行いました。

本学は広島交響楽団のキャンパスメンバーズ制度に加入していますが、その特典の一つに楽員による特別講義があります。

今年度は打楽器奏者の岡部亮登さんが「打楽器って簡単？」というテーマで、ご自身の音楽人生、打楽器の特徴、練習方法、楽員の日常などについて、演奏を交えながら親しみを込めてお話しくださしました。学生たちにとっては、打楽器の奥深さに触れる貴重な機会となりました。



庄原キャンパス

SHOBARA CAMPUS

学術講演会

12月7日の2限目に学術講演会を実施しました。今回の講師は、多機能フィルター株式会社社長丸本卓哉先生で、山口大学の学長を2期勤められ、現在は京都大学の幹事にも就任されています。



講演題目は「緑化による環境修復—土壤微生物との協働—」でした。前半に学生へ物質循環にかかわる微生物の話の分かりやすく話されました。後半はフィルターの開発の話で、斜面崩壊を防ぎつつ緑化を促進するのに新しい方法を考えて欲しいという地元企業の要請を受けて、丸本先生を中心に山口大学農学部が技術指導し10年で製品化に至り、会社を設立して20年となったことや、海外ビジネスまで見据えた確固たる技術開発にまつわるものでした。

その技術の概略は斜面にフィルターをかけて土壌の浸食を防ぐ、フィルターは基盤と不織布から成り、製品によっては種子が入っている、雨水はフィルター内を流れるが、基盤によって保護されているので土壌表面を流れない、種子は基盤から土壌に根を張るとともに不織布内を成長して緑化を促進する、この成長にプラスの効果をもたらすのが根圏菌で、短い時間で緑化の効果が得られるというものでした。学生、一般、教職員を含めて200名の聴講があり、盛況な講演会となりました。

庄原市民公開講座

11月2日、9日、14日に庄原市教育委員会と共催で、市民公開講座「ストレスの多面的研究—ストレスを科学する」を開催しました。現代社会においてストレスは、誰もが対峙しなければならない問題です。



講座風景第2回

回	講座名	講師
1	ストレスを生化学的に知ろう	生命環境学部 助教 大田 毅
2	心にみるストレスのメカニズム	保健福祉学部 教授 中谷 隆
3	文学を生み出したストレス	生命環境学部 教授 遠藤 伸治

そこで今回の講座では、ストレスを理解する観点からストレスがどのような仕組みで発生するのか、ストレスと心との関係をテーマとし、3回目ではストレスの効能という点からストレスが生み出した文学について講義しました。三原キャンパスの教員も担当し、キャンパス間の連携を活用した講座となりました。延べ78人の市民が出席され、2回以上出席された20名の方に修了証書を渡しました。

ワークショップ

11月1日に庄原キャンパスでワークショップ「地域おこし協力隊を考える」を開催しました。庄原市、三次市、安芸高田市、世羅町の隊員14名が参加しました。ワークショップのサポーターとして、島根県中山間地域研究センターの有田昭一郎主席研究員、嶋渡克顕客員研究員、中国新聞社報道部荒木紀貴記者、本学から経営情報学部市村匠教授、生命環境学部西村和之教授、同学部吉野智之准教授、庄原地域連携センター上水流久彦准教授が参加しました。ワークショップでは、①自治体文化への戸惑い、②達成目標の曖昧さ、③地域の危機感の欠如、④隊員どうしのネットワーク化による手法の共有化、⑤自身の将来への不安について話し合いを行いました。終了後、メンバーの連絡先の登録を庄原地域連携センターを事務局に行い、①地域・役所連携、②商品開発・ブランド育成、③人口減対策（空家バンクなど）、④IT活用、⑤自身の将来像の5つの部会をつくり、今後の活動につなげることにしました。



グループ討議の様子

研究紹介

太陽光を利用した次世代エネルギー開発

生命環境学部環境科学科 教授 大竹才人

現在の石油を始めとする化石燃料へのエネルギー依存は、資源の枯渇やCO₂排出に伴う環境負荷の増大など、大きな課題を抱えています。このエネルギー問題の解決には、枯渇の心配がなく環境への影響が少ない新たなエネルギー資源への転換が、早急に求められています。この解決に向けて、自然エネルギーの中で最も多くのエネルギーを有する太陽光に着目して研究を進めています。本研究室では、「超高効率な太陽電池研究」と「水の光分解による水素生成」の二課題に取り組んでいます。現在主流の太陽電池はシリコンが使用されており、この理論的な限界効率は約27%であることが示されています。我々は、理論限界効率が75%を示す量子ドット太陽電池の研究に取り組んでいます。精密な量子ドットの合成方法の確立と太陽電池作製技術の開発により、超高効率な次世代型太陽電池の開発を進めています。

また、化石燃料に代わる新たなエネルギー資源として水素に着目しています。そこで、この水素を太陽光エネルギーで水を分解して得る研究をしています。植物が光合成で行う二段階励起機構(zスキーム)に着目して、半導体材料によって人工的にzスキームを構築して、光触媒電極として利用しています。この電極を水溶液中で光照射することで、表面から水素が発生します。この様な取り組みを通して、エネルギー問題の解決に向けた研究を進めています。



生殖補助技術の開発と応用

生命環境学部生命科学科 准教授 阿部靖之

卵子・精子の凍結保存や体外培養など、生殖補助に関する研究を実用的な観点から進めてきました。現在、不妊に悩むカップルの率は18.2%（2015年出生動向基本調査、厚生労働省）まで増加していることや、家畜の繁殖障害が問題になっていることから、生殖補助技術の重要性が増しています。

しかし、生殖補助技術を利用した場合の妊娠率は決して高いとは言えず、生殖現象の理解をさらに深め技術改良していくことが必要です。一例を挙げると、受精卵の凍結は比較的に生存率が高いのに対し、未受精卵は凍結保存が困難であり、品質低下や細胞死を招きますが、そのメカニズムは不明です。そこで、哺乳動物の未受精卵を対象として、凍結卵子の特徴、特にミトコンドリア機能の変化に着目して解析するとともに、有効な凍結保存法の開発を試みてきました。

また、凍結障害卵子の救助法や、卵子・精子の発育誘導法などの開発も手掛けてきました。これらの知見・技術を発展させ、安定的に次世代を作出できるシステムを確立していきたいと考えています。また、2011年の福島第一原発の事故後から、その半径20km圏内に生息する動物を捕獲し生殖器の正常性を解析してきました。この事故によって拡散した放射性物質が生物にどのような影響をもたらすのか、情報を発信していければと考えています。



地域連携

県立広島大学地域戦略協働プロジェクト事業

「庄原市における大学と地域の協働を促進する体制づくりについて」

活気ある街には元気な若者や学生達が活躍する姿があります。庄原の街なかに学生達を誘い、学生を巻き込んだ街づくりが肝要であると、一昨年の庄原市長、広島みどり信用金庫理事長および本学学長との三者鼎談で話題となりました。これを受け庄原市自治定住課から本学部へ学生誘導のための仕組みづくりとして本題に掲げた協働事業の提案があり、これまで学生の地域での研究教育の窓口でもあるフィールド科学教育研究センターがこの事業の主体として動くことになりました。事業は、生命環境学部をはじめとする大学の地域活動への関わり方および学生のボランティア等による地域活動への参加体制作りや地域の受入態勢の整備を目的としたものです。

具体的には、1. 学生と地域との関わり方の実態や学生意識についてのアンケートの実施・分析、2. 正課及び正課外

で地域へ出て活動する授業や学生活動の支援とその継続のための検証、3. 地域と大学が連携した取組を活発に行っている自治体・大学への先行事例の調査、4. 市と大学による懇談会等の実施、となっています。

本学部学生の多くは庄原市内のアパートに住みアルバイトや普段の生活を庄原市街地に依存しており、サークル活動や農業ボランティアの活動等でも地域との交流を持っていますが、街なかでの存在感は低いのかも知れません。一方で学生の地域活動が活発化すれば、学業との両立、大学の関わり方、窓口の整理や人員配置の必要性などの課題も予測されます。本事業ではこれらを踏まえ実態調査や分析を行って、今後、学生が地域と一体となって活動し易い体制、また、地域からも信頼されるような体制の構築を目指してゆきたいと考えています。

平成29年度 公開講座のご案内

本学では、地域のみなさまの生涯学習に貢献するため、広島・庄原・三原の三キャンパスで公開講座を企画・提供しています。平成29年度は三キャンパスの地域連携センターで次のような講座を開講する予定です。ぜひ、ご参加ください。

担当キャンパス	講座名	実施時期	講座名	実施時期
広島	頭と体をフル活用! 簡単エクササイズ講座	4月	憲法を学ぶ	4～5月
	ピーターラビットを巡って	5～6月	鏡が映し出す日本の文化	6～7月
	ひろしま学を考える	7月	毛利元就周辺の群像	7～8月
	ひろしまの英学	8～9月	お子さま連れで学べるマネジメント基礎講座	9月
	情報セキュリティマネジメント試験対策講座	9月	情報学の今	10月
	健康づくりと運動	10月	日本語と琉球語・琉球方言	10～11月
	読み切り文学講座	11月	健康科学連続講座	11月
	近世城下町成立の謎に挑む	11月	くずし字に挑戦	11～1月
	ITパスポート試験対策講座	3月	経営情報学連続講座	3月
庄原	庄原市民公開講座(前期)	6～7月	産学連携成功事例講座	7月
	おもしろ実験講座	8月	図書館紹介講座	9月
	福祉関連講座	秋	中山間地域活性化講座	10月
	庄原市民公開講座(後期)	10月	言語文化生涯学習講座	2～3月
三原	家族支援の実践実技講座			7月
	KJ法を活用した実践的ワークショップの方法			7月
	脳と身体のいきいきトレーニング —認知症予防講座—			7月
	地域包括ケアにおける専門職連携と地域への働きかけ			9月
	子ども虐待の発生要因とその対処プログラム —メンタルヘルスと貧困を焦点に—			10月

各講座の詳細は募集開始後にホームページでご案内しますので、ご覧ください。

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

また、講座のお問い合わせは担当キャンパスの地域連携センターにお願いします。

地域連携センター報は本学ホームページにバックナンバーを掲載していますので、ご活用ください。
地域連携センターの活動についても、あわせてご覧ください。

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

編集後記

地域連携センター報第24号をお届けします。今回は、長年にわたって進めてきた共同研究の成果である「広島は、レモンで健康じゃ!シンポジウム」「レモン大学」をはじめ、各キャンパスで取り組んできた地域連携に関する活動・研究を報告・紹介しました。また、平成29年度の公開講座の計画もあわせてご案内しています。これらさまざまな事業を通して、本学は地域社会との結びつきを深め、地域住民の皆さんに親しまれる大学を目指しています。今後とも、ご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。(Y.S.)

編集発行

県立広島大学地域連携センター[本号編集担当]

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号

電話(082)251-9534 / E-mail: renkei@pu-hiroshima.ac.jp

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

各キャンパス問合せ先

県立広島大学庄原地域連携センター

〒727-0023 広島県庄原市七塚町562番地

電話(0824)74-1704 / E-mail: gakuju@pu-hiroshima.ac.jp

県立広島大学三原地域連携センター

〒723-0053 広島県三原市学園町1番1号

電話(0848)60-1200 / E-mail: mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp